

令和 6 年度（2024 年度） 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究（C）
○小区分 日本史関連
○研究代表者氏名 茶園 絃己
○所属研究機関 山梨県立博物館
○部局 山梨県立博物館
○職 学芸員
○学位 修士（歴史学）
○エフオー ト 25%
○研究課題名 戦国期に中部地方における「家」存続の構造
○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 6 年度	1,383	1,018	180	110	0	75
令和 7 年度	415	200	30	110	0	75
令和 8 年度	445	200	60	110	0	75
令和 9 年度	341	160	60	110	0	11
総計	2,584	1,578	330	440	0	236

○研究目的（概要）

戦国期は、有力領主層（国衆）の研究が進展してきており豊富な蓄積があるが、そのなかで「若年家督」に重点をおき、「家」存続の構造の解明を目指したものはなく、研究の余地が残されている。応募者はこれまで戦国大名駿河今川家の領国を対象に、「若年家督」となった有力領主層の「家」存続の構造について調査研究し学術誌などで成果を公開してきた。本研究では、その研究手法を甲斐武田家領国の「家」に適用し、駿河今川家領国の事例との比較検討を通じて、戦国期における「家」存続の構造を明らかにする。

戦国時代において戦争などにより家督が若年化する事例が多く見られるが、これは「家」が滅亡しうる存続の危機であり、その状況下においては「家」の構成員（家督・親族・家臣）が平常時には見られない活動や動向を見せ、「家」存続の構造が明瞭に浮かび上がる。つまり「家」存続の危機にこそ、その存続の構造がみられ解明することに繋がるのである。

令和 6 年度（2024 年度） 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究(C)
 ○小区分 日本史関連
 ○研究代表者氏名 中野 賢治
 ○所属研究機関 山梨県立博物館
 ○部局 学芸課
 ○職 学芸員
 ○学位 修士（文学）
 ○エフオー ト 25%
 ○研究課題名 富士川水運の地域経済圏—水運史関係史料の発掘と活用—
 ○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 6 年度	2,028	600	250	228	800	150
令和 7 年度	1,475	0	250	275	800	150
令和 8 年度	1,475	0	250	275	800	150
総計	4,978	600	750	778	2,400	450

○研究目的（概要）

富士川水運は知名度が高く、考察のための史料にも恵まれているものの、青山靖氏の『富士川水運史』（1959 年）以来、本格的な研究が行われてこなかった。また富士川流域に含まれる市川代官所は、久留島浩氏が中間支配機構としての郡中惣代・惣代庄屋を「発見」した舞台のひとつであるが、彼らの支配機構以外の側面にはほとんど注目がなされていない。天保 9 年(1838)には、塩取引の自由化を求め、甲斐国内の 466 ヶ村もの村々が連携し、駿河国岩淵村の名主を訴えている。また富士川水運の運営を独占していた鰍沢・黒澤・青柳の三河岸に対し、河原部村に新しい河岸を立てようと村々に呼びかけたのも郡中惣代たちであった。こうした村々の連携は、支配の一環ではなく、村連合による組織的な運動であり、郡中惣代がこれを主導した点は、彼らと地域との関係をみるうえで極めて重要であろう。

富士川水運では、甲斐・信濃の広範な地域の年貢米をはじめとする物資が鰍沢などに運ばれ、清水湊を経由して江戸や大坂に送られて、逆に様々な物資が内陸地域にもたらされた。操船技術の向上などを背景に、近世中期以降、富士川水運の輸送量は増大を続けた。大量の物資をより効率的に運ぶため、郡中惣代や河岸の間屋たちは時に連携し、時に新たな輸送経路を確立すべく厳しく対立した。富士川水運の輸送状況の変容にとまない、地域社会がどのように変容していったかを考えたい。

令和 6 年度（2024 年度） 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究（C）
 ○小区分 日本史関連
 ○研究代表者氏名 小畑茂雄
 ○所属研究機関 山梨県立博物館
 ○部局 山梨県立博物館
 ○職 学芸員
 ○学位 修士（史学）
 ○エフオー ト 25%
 ○研究課題名 新型コロナウイルス感染症関係資料の収集と資料化について
 ○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 6 年度	1,519	372	473	230	394	50
令和 7 年度	1,392	0	448	450	394	100
令和 8 年度	2,021	0	448	230	247	1,096
総計	4,932	372	1,369	910	1,035	1,246

○研究目的（概要）

新型コロナウイルス感染症は、世界的な流行によって多くの人々の生命や経済活動への脅威を与え、現存する人々が今なお直面している課題となっている。こうしたパンデミックのような「非常時」に直面するなかで、歴史系博物館において、例えば「スペイン風邪」のような今次の感染症の大規模流行と同様の歴史的経験を振り返ることは、重要な普及活動のひとつであるといえる。しかし、申請者が所属する山梨県立博物館において、こうした活動の実践を試みたところ、少なくとも山梨県においては、約 100 年前の「非常時」である「スペイン風邪」の資料は、その多くが収集されずに散佚したことが明らかとなった。そこで、本研究では「新型コロナウイルス感染症関係資料」（以下「新型コロナ関係資料」）の収集を基軸として、同時代の「非常時」に関する資料を収集する実践的活動とともにその特性を探り、博物館資料として保存・活用していくための基礎的な研究を行うものとする。

令和 6 年度（2023 年度） 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究（C）
 ○小区分 美術史関連
 ○研究代表者氏名 松田 美沙子
 ○所属研究機関 山梨県立博物館
 ○部局 山梨県立博物館
 ○職 学芸員
 ○学位 修士（美学）
 ○エフオー ト 30%
 ○研究課題名 浮世絵師の地方における活動の基礎的研究
 ○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳（千円）				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 6 年度	1,064	458	255	225	101	25
令和 7 年度	562	0	135	230	172	25
令和 8 年度	1,634	0	105	100	314	1,115
総計	3,260	458	495	555	587	1,165

○研究目的（概要）

浮世絵研究の主軸は“江戸”で作成された華やかな錦絵を中心とする作品論であるが、浮世絵師たちは江戸以外の“地方”を題材とした名所絵も手掛け、また江戸近郊を中心とする地方に赴いて実際に制作活動を行い、作品を残している。例えば、山梨県における歌川広重や長野県での葛飾北斎の活躍など、すでに研究報告がなされている例も散見でき、江戸以外の地で往時の主要な浮世絵師たちが活動していることがわかっている。

本研究では、地方における江戸の浮世絵師の活動に焦点を当て、絵画資料のみならず、歴史資料からも言及して、“地方と絵師”という関係性から調査を進め、より詳細な絵師の一面を明らかにすることを目標とする。また、正確な浮世絵師の研究を行うために必要不可欠であり、今後の浮世絵研究を飛躍的に前進させることが可能となる、浮世絵師の地方における活動内容に関する基礎データの作成及び公開を最終目的とする。

令和 5 年度 シンボル展
「国名勝指定 100 周年記念 甲州の匠の源流 御嶽昇仙峡」
終了報告

1. 概要

【内 容】

令和 2 年（2020）に日本遺産に認定され、令和 5 年（2023）に名勝指定 100 周年（特別名勝指定 70 周年）を迎える御嶽昇仙峡は、仙娥滝や覚円峰に代表される、自然の造形美をみることができる、山梨を代表する景勝である。すぐれた景観の地であるだけでなく、その最奥に位置する金峰山に対する山岳信仰や、かつてはわが国有数の産出量を誇った水晶とその研磨産業など、歴史・文化に関わる遺産も豊富であり、現在の甲府盆地の人々の命と暮らしを支える貴重な水資源でもある。本展では、こうした御嶽昇仙峡をめぐるさまざまな歴史資料や美術作品を通じ、地域の人々が守り伝えてきた文化と、育んできた景観について紹介する。

【期 間】 令和 5 年 5 月 27 日（土）～6 月 26 日（月）
会期日数 31 日（開館日数 27 日）

【主 催】 山梨県立博物館

【観覧料】 一般 520（420）円、大学生 220（170）円
※（ ）内は 20 名以上の団体料金、県内宿泊者割引

【主な展示資料】

ニホンオオカミ頭骨（当館蔵）、「御嶽昇仙峡」絵葉書（当館蔵）、御嶽昇仙峡（金子常光鳥瞰図）（当館蔵・個人蔵）、官遊紀勝（渋江長伯筆）（個人蔵）、黒平産水晶（やまなし伝統工芸館蔵）、水晶眼鏡（当館蔵）、萬註文帳（土屋華章製作所蔵）、御嶽昇仙峡絵巻（三枝雲岱筆）（当館蔵）、甲斐御嶽御坂図（竹邨三陽筆）（当館蔵）、仙嶽關路図（当館蔵）、甲陽御嶽新道之図（当館蔵）、御嶽昇仙峡ペナント（個人蔵）等
総数 50 件

2. 関連イベント

○民俗芸能ライブ「黒平の能三番」

日時：令和 5 年 6 月 10 日（土）

会場：ロビー

○記念講演会「御嶽昇仙峡と水晶」

講師：金井拓人氏（帝京大学文化財研究所講師）

日時：令和 5 年 6 月 17 日（土）

場所：生涯学習室

参加者：36 名

○かいじあむ講座

第1回「御嶽昇仙峡地域の民俗芸能」

講師：丸尾依子（学芸員）

日時：令和5年6月18日（日）

場所：生涯学習室

参加者：32名

第2回「御嶽昇仙峡地域の民俗芸能」

講師：近藤暁子（学芸課長）

日時：令和5年6月25日（日）

場所：生涯学習室

参加者：23名

○学芸員によるギャラリートーク

日時：令和5年5月27日（土）、6月4日（日）、6月24日（土）

15：00～16：00

場所：企画展示室

3. 入場者数

【入館者数】 3,079名（1日平均入館者数：114名）

4. 刊行物・広報

【刊行物】 ・リーフレット A4版・4頁 3,000部（無料配付）

【広報】 ・ポスター B2 600枚

・ちらし A4 20,000枚

【マスコミでの紹介】

・新聞記事（山梨日日新聞 連載など）

5. 総括

- ・御嶽昇仙峡の国名勝指定の周年として、県立各館でおこなわれた関連展示のひとつとして開催した。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが5類となって最初の展覧会ということで、観光地である御嶽昇仙峡への周遊を念頭に置いた展示として構成した。
- ・吉田初三郎や金子常光ら、大正から昭和初期に好評を博したパノラマ図のパンフレットについて、ごく小さな原資料から大きく引き延ばしたグラフィックを展開するなど、資料の理解を促進する視覚的な展開を大きく取り入れた。
- ・関連イベントでは、「黒平の能三番」を上演したほか、地質学の講師を招聘した記念講演会、民俗、美術担当学芸員によるかいじあむ講座など、さまざまな角度から御嶽昇仙峡を理解するための催しを複数回実施した。
- ・御嶽昇仙峡が観光地であることに鑑みて、展示資料と観光名所となっている見どころの情報がリンクするように、陳列方法や情報展開について考慮した。
- ・観光地としての御嶽昇仙峡のほか、同地にまつわる温泉や水晶などの産業についても着目し、土屋華章関係や御嶽自動車関係など、新しい資料の掘り起こしにつながった。

企画展
「水木しげる 魂の漫画展」
終了報告

1. 概要

【内容】

『ゲゲゲの鬼太郎』などで知られる日本漫画界の鬼才水木しげる（本名 武良茂 1922-2015）氏の漫画原稿、原画、愛用の道具、映像資料等を展示し、画業への情熱と日本的でありながら独自性を持った精神世界を紹介した。特に、幼少期に培われた他界異界観、戦争体験を経て醸成された死生観、それらを画業へと昇華させることで生まれた背景の自然表現などにスポットを当てた。

また、水木氏による「キの神」原画と山梨岡神社の「夔神神像」を同時展示して山梨展の独自性を打ち出すとともに、水木作品にも色濃く見ることができる日本の民間信仰—自然・神・人の三者の関係性—についても考える機会とした。

【期間】 令和5年7月15日（土）～9月4日（月）
会期日数 52日、開館日数 49日

【主催】 山梨県立博物館、UTYテレビ山梨

【後援】 朝日新聞甲府総局、NHK甲府放送局、エフエム甲府、エフエム富士、産経新聞甲府支局、テレビ朝日甲府支局、日本ネットワークサービス、毎日新聞甲府支局、山梨新報社、山梨中央銀行、山梨日日新聞社・山梨放送、読売新聞甲府支局

【企画協力】 水木プロダクション

【制作協力】 NHKプロモーション

【主な展示資料】

- ・水木しげる氏漫画原稿・原画（水木プロダクション）
- ・妖怪ブロンズ（水木プロダクション）
- ・「キの神」原画 ※カラー原画・モノクロ原画（水木プロダクション）
- ・夔神神像（山梨岡神社）

2. 関連イベント

- ・スペシャル・ギャラリートーク 7月15日（土） 講師 原口尚子氏
- ・落語「化け物使い」 8月6日（日） 出演 立川談慶氏 参加者 60名
- ・怪談朗読会 7月23日（日） 出演者 小田切いくみ他 参加者 90名
- ・演劇「シチヘンゲ・ラブソディ～現代七化狂詩～」 9月3日（日）、4日（月）
作・演出 中原和樹 協力 YCC 県民文化ホール指定管理者 参加者約 60名
- ・子ども工房「オリジナルの妖怪切り絵をつくろう」 8月12日（土）

講師 雨宮尚子氏（絵本作家） 参加者 24名

・学芸員によるギャラリー・トーク 7月29日（土）、8月20日（日）、26日（土）

3. 入場者数

【入館者数】 23,726名（1日平均入館者数：484名）

4. 刊行物・広報

【刊行物】 ・図録（巡回展）※リーフレットは作成せず

【広報】 ・ポスター B2 1,200枚
・ちらし A4 40,000枚

【マスコミでの紹介】

・テレビCM（テレビ山梨）など

5. 総括

○巡回展の選定と入館者数について

- ・水木作品はファン層が厚いことから、幅広い年代を惹きつける内容であった。
- ・「漫画（ストーリー、画力）」「妖怪（民間信仰）」「戦争」など切り口が多く、多くの来館者層の興味関心に応えることにつながった。
- ・作品量が多く、来場者を飽きさせない展示構成がリピーターの確保につながった。
- ・来館者の傾向を独自に調査（聞き取りによる）したところ、30～40代の子育て世代が水木作品に興味があり、子ども（年長～小学生程度）を伴って来館しているパターンが比較的多いようであった。これまでの夏期展覧会は子ども向けを意識してきたが、子育て中の大人世代の興味関心にも視野を広げることは必要である。
- ・同時期に名古屋市博で開催した水木関係の展覧会（7/15～9/24 ※当館の展覧会より20日長い）の入館者数は6万人であった。人口規模（名古屋市232万人）や会館日数を考慮して比較すれば、同程度の入り具合である。

○広報

- ・水木プロダクションの協力により、水木作品の最新映画やアニメ・ゆかりの地である境港の広報コーナーの設置を行い、会場の雰囲気盛り上げた。
- ・テレビ山梨と共同で開催することにより、広報が充実した。
- ・展覧会の準備段階をTwitter（X）で発信し、期待感を高めた。
- ・水木しげるや展示内容への理解を深めることで水木プロとの関係を良好に保ち、広報やオリジナル展示に対する助力を得た。

○展示内容・イベント開催の工夫

- ・妖怪や民間信仰など、水木作品と民俗分野との接点となる展示内容を充実させた。
- ・山梨ゆかりの妖怪にオリジナルキャプションを設けるなど、水木プロとの交渉を経て一部の展示構成を変更し、山梨独自の内容とした。
- ・公開頻度が少なく、かつ山梨ゆかりの水木作品を探して独自に出品交渉を行い、モデルとなった信仰物（山梨岡神社蔵）とともに展示することで山梨と水木しげるのつながりをPRした。
- ・イベント開催・出品交渉ともにUTYと職員の人脈や関係性を活かした。特に山梨岡

神社秘蔵の夔神神像の出品においては、これまでの良好な関係性の継続により快諾をいただくことができた。

○その他

- ・特設ショップの商品が充実していた。それらの価格帯も良心的であったため、来館者の購買意欲が高まりリピーター確保につながった。

運営という点では、「みんつく」からのご意見も参考にしております。

利用者目線で考えよ、学芸員だけでがんばってはいけない、地元を大切に、というお話を常にいただいていますし、

経営者のお立場から「目先の売り上げよりも顧客の満足」こそ最も大切にすべきもの、とのアドバイスもいただいております。

さらに今回、水木プロの方々の仕事ぶりからは、将来を見据え、一瞬のサービスのために企業の使命を曲げない信念も必要であると教えていただきました。

みんつくの意見を反映してこれをやったという具体的な内容ではありませんが、担当学芸員としては、上記のようなアドバイスや学びを活かして展覧会運営を行ったという実感はあります。

しかしながら、当館の近年の夏の企画展は同程度の入館者を得ていることが多く、やはり水木展だけが突出した「成功」を納めたとは考えておりません。

(リカちゃん：H30、ねこ展：R1、南極：R4→いずれも2～3万人台)

加えて、

つまり、水木関係の展覧会ではこの程度の入館者数が妥当である、ということになるのかもしれない。

いろいろ要因になりそうなことを考えてみましたが、

担当者の感覚としては、正直に申しあげて、ここに記載したような様々な工夫や努力が入館者数に直接的に跳ね返っているのかどうかはわかりかねます。

ただ、ご来場いただいた方々の満足にはつなげることができたと自信を持って言えます。

また、これまでに当館が行ってきた博物館活動の積み重ねが結実した事例のひとつ、とも言えると思います。

その意味においては「成功」した展覧会であると自負しています。

資料・情報委員会の答申状況について

1. 令和5年度 資料・情報委員会委員一覧(50音順、敬称略)

氏名	専門分野	肩書
新井 勝紘	日本近代史	元専修大学教授
黒田 基樹	日本中世史	駿河台大学副学長
小島 孝夫	民俗学	成城大学教授
鈴木 卓治	情報工学	国立歴史民俗博物館教授
鈴木 麻里子	日本美術史（彫刻）	山梨県文化財保護審議会委員
内藤 正人	日本美術史（絵画）	慶應義塾大学教授
新津 健	考古学	元山梨県埋蔵文化財センター所長
西村 慎太郎	日本近世史	国文学研究資料館教授

※任期は2年間（R4.4.1～R6.3.31）

2. 令和5年度 第1回(通算第36回)の開催状況

【開催日時】令和5年8月31日（木）14:00～16:00

【出席者】新津委員長、鈴木（麻）委員長代理、小島委員、黒田委員、
鈴木（卓）委員、内藤委員

※新井委員、西村委員は欠席

【審議内容】

(1) 資料の収集について

4件（48点）の収集資料候補（購入・寄託）についての審議を行い、すべて収集が適正であると決議された。

【審議資料】

(1) 購入 1件

1	庚申年富士山参詣 群衆之圖 歌川芳 藤筆	1点	歌川芳藤による大判錦絵3枚続の作品。庚申の年である万延元年（1860）に富士参詣をする人々の姿を描き出したもの。山梨県側である、吉田口の登山道が描かれている。
---	----------------------------	----	---

(2) 寄託 3件

1	廣巖院文書	36通	甲斐国における曹洞宗の中心的寺院であった廣巖院
---	-------	-----	-------------------------

			に伝わる古文書のうち、山梨県指定文化財として指定されているもの。武田氏関係の文書や曹洞宗関係の文書が中心。
2	一宮浅間神社検地帳	3冊	甲斐国一宮浅間神社および同社宮司家に伝来した検地帳。徳川家康領国時代の天正17年(1589)の検地帳1冊と、慶長6年(1601)の検地帳2冊(うち1冊は写)からなる。
3	T家資料	8点	T家に伝来した古文書類。徳川光圀書状や賀茂季鷹詠草、宝井其角宛書状などが注目される。神道裁許状などから、金櫻神社の神主小田切氏の旧蔵品が含まれるものと考えられる。

令和5年度「みんなで作る博物館協議会」の開催状況について

1. 第1回開催状況

【日 時】 令和5年8月21日（月）14時～16時

【場 所】 山梨県立博物館 生涯学習室

【出席者】

（委 員）小澤龍一委員長、出澤忠利委員長代理、浅川初美委員、足達郁也委員、北原対馬委員、末木健委員、辻茂委員、長沢宏昌委員、初鹿紀子委員、八田知子委員、古屋久昭委員、

（文化振興・文化財課）森原明廣文化企画指導監

（事務局）守屋正彦館長、渡邊健二副館長、佐々木伸治総務課長、石神孝子企画交流課長、近藤暁子学芸課長、武川祐介総務担当リーダー、丸尾依子企画交流担当リーダー、込山たまき資料情報担当リーダー、熊谷悠哉副主査、松田美沙子学芸員、茶園紘己学芸員

【内 容】 第IV期評価制度（令和5～8年度）における事務局案について提案。
みんなで作る博物館協議会(以下、「みんなつく」と言う。)において承認。

2. 協議会委員の改選について

【経 緯】

・令和5年

8月31日 みんなつく任期終了（R3,9月1日～）

9月～ 事務局において改選に伴う委員選定に着手

10月26日 文化振興・文化財課より知事へみんなつく改選の報告メモを提出

11月9日 文化振興・文化財課より改選案について承認の連絡

【任 期】

令和5年11月1日から令和7年10月31日まで

【体 制】

別紙のとおり

山梨県立博物館 令和4年度から令和8年度までの評価項目

※評価方法Aは数値評価、評価方法Bは自己診断、評価方法Cは通信簿ツアーをそれぞれ指す。

※評価A、B、Cをふまえて、令和4年度に運営委員会において総合評価を実施し、総合評価報告書を刊行した。

使命1	使命2	使命3
使命1に対応した活動目標	使命2に対応した活動目標	使命3に対応した活動目標
活動目標に対応した評価項目	活動目標に対応した評価項目	活動目標に対応した評価項目

山梨県立博物館の使命	使命1：山梨県立博物館は「山梨の自然と人との関わりの歴史を学ぶこと」を目指します。	使命2：山梨県立博物館は「交流」のセンターを目指します。	使命3：山梨県立博物館は「成長する博物館」を目指します。
(1) 運営（ミュージアムマネジメント）及びミュージアムサービスについて	<ul style="list-style-type: none"> 山梨県立博物館が整備されて良かったと思われ、思われる博物館づくりを目指して、当館が提供するあらゆるサービスの利用者数の増加に努めます。具体的には開館16周年目から開館20周年目までにXXXXXXXX人の総利用者数を目指します。 山梨県立博物館がどのような使命を持って整備されたのかを分かりやすく明示し、職員・利用者ともに共通の理解を得られるように努めます。職員間において使命と課題の確認を行うため、年1回の全体研修を行います。 博物館の使命がどの程度達成できたのかを館内外に明らかにするために、利用者の視点に立った活動目標を設定し、その実現に向けて最善の努力をします。 博物館が提供するあらゆるサービスについて多くの利用者に御満足いただけるよう、絶えず改善し続ける博物館づくりに館に携わる全ての人々が一丸となって努めます。そのために、常に博物館全体の活動について自己点検を行い、また利用者の側からの評価の声を受け入れ、その結果を公開します。また、当該年度の利用者評価の結果を年末の全員出勤日に全員で確認し、共有します。 NPOとの協働などをとおして、広く県民が参画できる事業活動を推進し、県立博物館及び山梨県への親しみや関心が深められるように努めます。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 総利用者数（評価方法A） 館員及び利用者を対象として、博物館使命がどの程度認知されているのかの調査（評価方法C） 毎年、職員間で使命と課題の確認が行われ、かつ利用者評価の結果の共有が行われているか？（評価方法B） 利用者の視点に立った目標を設定しているか？（評価方法B） 目標の達成状況については、自己及び他者評価を行い、その結果を公開しているか？（評価方法B・C） 県民参画事業の参加者数（評価方法A） 		
(2) 調査・研究について	<ul style="list-style-type: none"> 「山梨の自然と人との関わりの歴史」をテーマとした調査・研究を精力的に実施し続けます。 専門分野を横断する共通テーマのもと、多分野参加型による共同研究や館内研究会を行い、かつ個人研究の発表の機会を設ける等して、博物館における調査・研究活動の活性化を促します。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査・研究の最新成果を展示や諸講座等の機会をとおして積極的に公開し、利用者の知的好奇心を満足できるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 学術研究機関としての博物館の魅力を高めるために、外部資金の導入などによって積極的に調査・研究を行い、その成果を論文や研究発表などとおして、広く社会に還元します。また、その実現に向けて県内外の人々との共同調査・研究を積極的に推進します。
	<ul style="list-style-type: none"> 博物館職員及び共同研究者が行った調査・研究項目について一覧表化がなされているか？（評価方法B） 共通テーマによる多分野参加型による共同研究の館内研究発表を年3回以上実施したか？また、個人研究の発表の機会を年2回以上設けたか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要や調査報告書類の作成・発行を行っているか？（評価方法B） 館主催諸講座の開催数（評価方法A） 館職員の館外担当講座数（出前授業も含む）（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館職員による論文執筆や講演・報告などの研究実績が定期的に蓄積されているか？（評価方法A） 科学研究費ほか外部資金の導入などとおして、共同調査・研究が行われているか？（評価方法B） 県民参画による調査・研究が行われているか？（評価方法B）
(3) 資料の収集、保存及び活用について	<ul style="list-style-type: none"> 資料保存機関としての博物館という魅力を高めるために、「山梨の自然と人との関わりの歴史」を明らかにする上で必要な資料の収集・保存に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集及び保管・調査資料の利用体制の充実化をはかります。これら資料の目録化（データベース化）を進め、館内外の人々にとって共に積極的な活用が可能となるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集した資料の活用を図り、展示やホームページなどとおして、新たな資料情報を積極的に公開します。
	<ul style="list-style-type: none"> 資料の収集点数（評価方法A） 個々の資料について適切に資料保存・修復措置を行っているか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 全収集点数の内、目録化（データベース化）がなされた資料点数の割合（評価方法A） 資料の総利用件数（一次資料やマイクロフィルムなど二次資料も含んだ閲覧件数、館外資料貸出件数など）（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> 新たに展示やホームページに公開した資料点数（評価方法A）

(4) 展示について	<ul style="list-style-type: none"> ・展示をとおして魅力あふれる「山梨の自然と人との関わりの歴史」像を積極的に多くの人々に向けて発信し続けます。具体的目標としては、開館16周年目から開館20周年目までにXXXXXX人の利用者数を目指します。 ・月1回以上の学芸員会議を開催するとともに、開催準備中の展覧会について、担当分野外の学芸員から意見をj得る機会を設けます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の現場との連携をj深め、子ども達が楽しみながら山梨の歴史や文化を学ぶことのできる展示を作り続けます。具体的には開館16周年目から開館20周年目までにXXXXXX人の学校利用者数を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズや調査・研究の進展に対応して、企画展の開催や、年間をとおした常設展示の展示替えを行います。 ・展示計画に際しては、学芸員による会議によってアイデアを出し合うとともに、常設・企画とも展示計画の早期検討に努めます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示の利用者数（評価方法A） ・企画展利用者数（評価方法A） ・展覧会の企画運営において、当該分野をのぞく2分野以上の学芸員から意見を聞き、山梨県立博物館らしさのある展示内容になるよう努めたか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館への学校利用件数及び参加者数（評価方法A） ・展示をわかりやすく解説するワークシートなどを作成しているか？（評価方法CまたはB） 	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示の印象に関わるアンケート調査（評価方法CまたはB） ・企画内容や展示手法の満足度に関するアンケート調査（評価方法CまたはB） ・常設展示における年間の展示資料点数（どれだけ展示替えを行っているのか？）（評価方法A） ・常設展示の来館者数増加に向けた取り組み（評価方法B） ・展示企画会議を年1回以上開催するとともに、展覧会計画の早期検討に努めたか？（評価方法B）
(5) 企画交流活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外に対し、「山梨の自然と人との関わりの歴史」像の浸透に資する効果的な企画交流活動の立案・実行に努めます。 ・ミュージアムエデュケーションに関する最新情報の入手に努め、実践に結び付けます。 ・様々な普及事業を通じ、利用者に博物館の展示や山梨の歴史・文化に対する興味関心を高めたり、深めたりしていただきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の現場と密接に交流し、博学連携の強化に努めます。 ・県内各地の文化施設・史跡・自然と密接に連携し、多くの利用者を県内各地へと誘導する企画交流活動の立案・実行に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに応じて、企画交流活動の内容の見直しや新規の立案に努めます。 ・大学や図書館、研究団体など、新たな施設・団体との連携の強化に努めます。 ・イベントの参加者の満足度80%以上を目標とします。
	<ul style="list-style-type: none"> ・年間における企画交流活動数及びその参加者数（評価方法A） ・ミュージアムエデュケーションに関わる研修会への参加や他館視察を年1回以上実施して事例研究を行うとともに、館内研究会等における報告を行っているか？（評価方法B） ・イベント企画時には、ねらいを明確にし効果を高めるため、関連する分野の学芸員と情報交換を行いながら実施計画を作成しているか。（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> ・博学連携に関わる取り組み（評価方法B） ・出前授業等の件数及び参加者数（評価方法A） ・貸出用キットの利用件数（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画交流活動に関わる取り組み（評価方法B） ・各種連携事業を実施するにあたりどのような工夫を行っているか？（例えば、大学・図書館との連携やミュージアム甲斐ネットワークなど）（評価方法B） ・地域インデックスの活用策を企画・実行したか？（評価方法B） ・イベント終了時に行う簡単なアンケートによる満足度調査（評価方法A）。
(6) 施設の整備・管理について	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨の歴史や文化について、人々が快適に学ぶ環境を整えるために、人にとっても安全かつ快適な施設・整備の管理に努めます。 ・魅力あふれる「山梨の自然と人との関わりの歴史」を知ることが出来る貴重な資料を永く後世に伝えていくために、資料にとって安全かつ快適な施設・設備の管理に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への施設開放（例えば生涯学習室の貸し出しなど）を積極的に行うことで、県民に親しまれる博物館づくりを推進し、開館11周年目から開館15周年目までに69,750人の利用者数を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに応じ、未来に向けた新たな博物館のあり方について検討します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・火災等の緊急事態に対して、職員の研修をはじめとした対応を行っているか？（評価方法B） ・緊急の傷病者への対応に関して、職員の研修をはじめとした対応を行っているか？（評価方法B） ・バリアフリー対策を行っているか？（評価方法B） ・資料保存について措置を講じているか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対する施設開放件数及び利用者数（例えば、生涯学習室の貸し出しなど）（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> ・国宝・重要文化財を展示する公開承認施設に指定されているか？（評価方法B） ・展示施設の新規整備やその活用が図られているか？（例えば、体験型展示の充実など）（評価方法B） ・屋外展示について、NPOや協力会等の協力を得て、屋外展示を活用した事業を年4回以上実施したか？（評価方法B）

(7) 情報の発信と公開について	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が「山梨の自然と人との関わりの歴史を学ぶ」ことについて支援することに努め、レファランスタとあし開館16周年目から開館20周年目までにXXXX人が知的好奇心を満足できるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県立博物館の活動全般について、県内外の人々に対して積極的にPR活動をするように努め、例えばホームページをとあした場合は開館16周年目から開館20周年目までにXXXXXX件のアクセス数を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを使用した博物館通信の送信や館外におけるPRなど、新たな広報活動の取り組みに努めます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・レファランスタ対応件数（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページアクセス数（評価方法A） ・ホームページの更新や利用者ニーズに応じた内容の検討を行っているのか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような情報をどのような媒体で情報発信しているのか一覧表化がなされているか？（評価方法B）
(8) 市民参画について	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOやボランティアなどとの協力を得た事業活動を実施し、共同事業では開館16周年目から開館20周年目までにXXXX人と交流できるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の視点から博物館の評価を行い、その成果を博物館の成長や運営改善に向けて反映するよう努めます。 ・協働会やNPOと協働した事業を行うことにより、博物館活動の充実化に努めます。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOや協働会（ボランティア）との協働事業開催件数及び参加者数（評価方法A） ・協働会（ボランティア）の登録者数（評価方法A） ・協働会（ボランティア）ではどのような活動を実施したのか一覧表化がなされているか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者による博物館評価を実施し、その結果を館の運営に反映できるよう工夫がなされたか？（評価方法BまたはC） ・屋外展示について、NPOや協働会等の協力を得て、屋外展示を活用した事業を年4回以上実施したか？（評価方法B） 	
(9) 組織・人員について	<ul style="list-style-type: none"> ・職員各自の資質向上ができる環境整備に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者機関の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映するよう努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員各自の資質向上ができる環境整備に努めます。 ・第三者機関の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映するよう努めます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・職員各自の資質向上に関わる研修を実施したか？（評価方法B） ・職員に対して、新任職員研修、防災・救急研修を年1回実施したか？（評価方法B） ・職員と交流員は、次に挙げる内容のうち、当該年度に開催される研修に2種類以上かつ年4回以上参加し、交流の質の向上に努めたか？（評価方法B） コミュニケーション研修／話しかた研修／接遇／展示替え後の説明会／他館または館外講師による解説・ワークショップ参加・視察／館内研究会／展示解説 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者機関（運営委員会、みんなでつくる博物館協議会、資料情報委員会など）の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映できるよう工夫がなされたか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員各自の資質向上に関わる研修を実施したか？（評価方法B） ・職員に対して、新任職員研修、防災・救急研修を年1回実施したか？（評価方法B） ・職員と交流員は、次に挙げる内容のうち、当該年度に開催される研修や講習等に2種類以上かつ年4回以上参加し、交流の質の向上に努めたか？（評価方法B） コミュニケーション研修／話しかた研修／接遇／展示替え後の説明会／他館または館外講師による解説・ワークショップ参加・視察／館内研究会／展示解説 ・第三者機関（運営委員会、みんなでつくる博物館協議会、資料情報委員会など）の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映できるよう工夫がなされたか？（評価方法B）
(10) 外部支援と連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に質の高い博物館活動に資するよう、外部支援体制の導入に努めるとともに、地域連携を図ります。 ・館の運営のために外部支援体制の導入に努めたか？（評価方法B） ・山梨県内外における歴史・民俗系博物館等との連携を図っているか？（評価方法B） ・文化財レスキューなど、県立博物館が地域社会を支援する体制の整備に努めたか？（評価方法B） 		

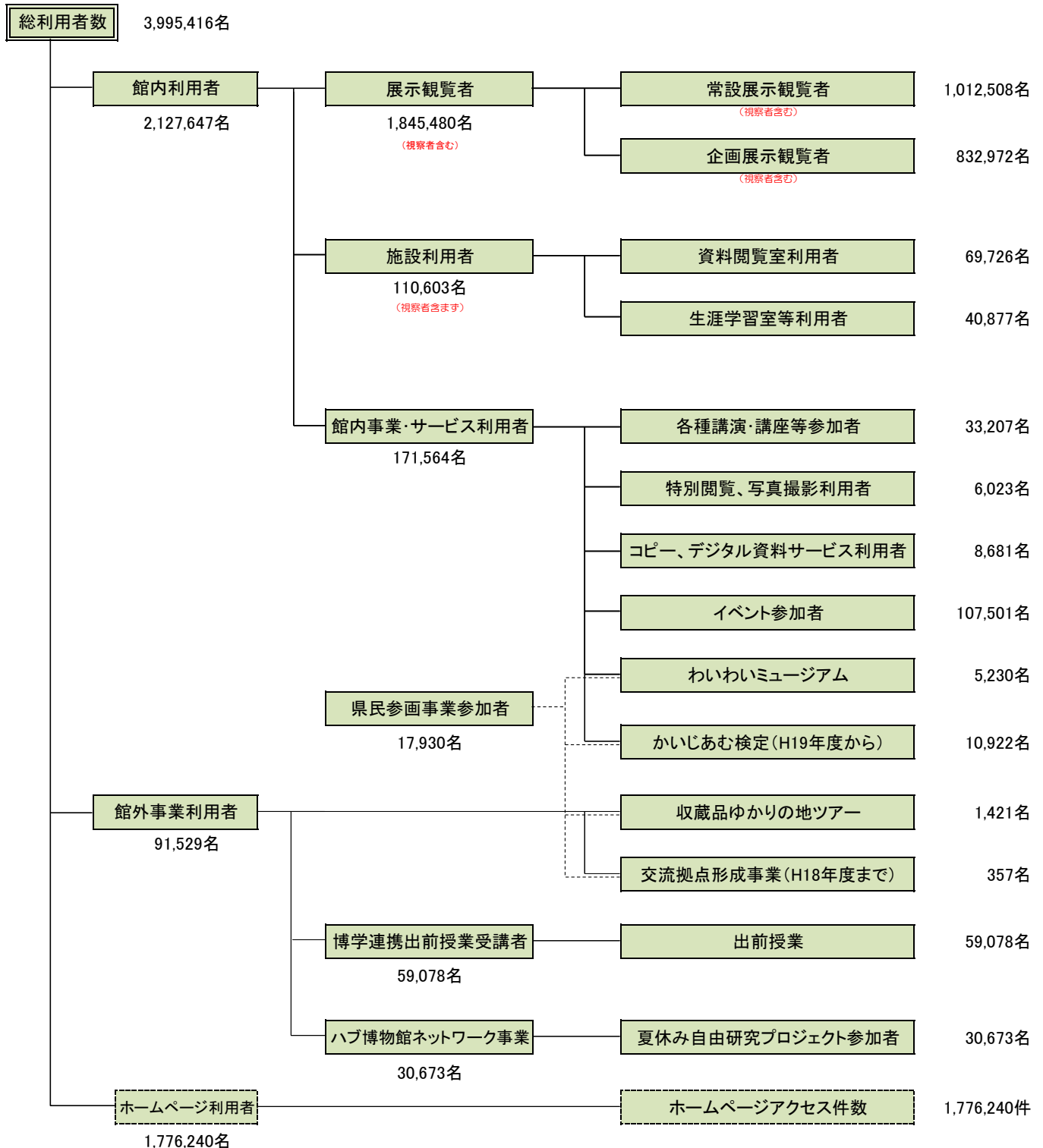
県立博物館における「利用者」の状況

平成17年10月15日～令和5年10月末日まで

令和5年10月末日現在

○博物館の利用者とは、博物館の施設、提供するサービスを利用した者および博物館の事業・活動に参加したすべての対象者をさす。
 なお、一部の利用については、総計に重複して表れる性質がある。

○ここに示す利用者数は、開館(平成17年10月15日)以来、令和5年10月末日までの状況をまとめている。



県立博物館における「利用者」の状況（令和5年度）

令和5年10月末日現在

○博物館の利用者とは、博物館の施設、提供するサービスを利用した者および博物館の事業・活動に参加したすべての対象者をさす。
 なお、一部の利用については、総計に重複して表れる性質がある。

○ここに示す利用者数は、令和5年10月末日までの実績である。

総利用者数	176,295名		
館内利用者	68,118名	展示観覧者	61,475名
		常設展示観覧者	31,178名
		企画展示観覧者	30,297名
		うち教育課程	
		施設利用者	1,461名
		資料閲覧室利用者	1,175名
		生涯学習室等利用者	286名
		館内事業・サービス利用者	5,182名
		各種講演・講座等参加者	1,699名
		特別閲覧、写真撮影利用者	119名
		教育普及事業利用者	4,624名
		コピー、デジタル資料サービス利用者	439名
		イベント参加者	2,925名
		わいわいミュージアム	0名
		県民参画事業参加者	0名
		かいじあむ検定(H19年度から)	0名
館外事業利用者	1,603名	収蔵品ゆかりの地ツアー	0名
		博学連携出前授業受講者	902名
		出前授業	902名
		ハブ博物館ネットワーク事業	701名
		夏休み自由研究プロジェクト参加者	701名
ホームページ利用者	106,574名	ホームページアクセス件数	106,574件

■開館から令和5年度までの年度別入館者統計

令和5年10月末日現在

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)																	館外利用者					ホームページ 利用者
		展示利用者 (a)						施設利用者 (b)			館内事業・サービス利用者 (c)								出前授業 貸出キット 外部講座	県民参画事業		ハブ博物館 ネットワーク事業		
		常設展示		企画展示		資料閲覧室 利用者	生涯学習室 等利用者	講座・講演会 参加者	特別閲覧・ 写真撮影等	コピー・デジタル 資料サービス利用	イベント 参加者	わいわい ミュージアム	かいいあむ 検定(館外)	収蔵品ゆかり の地ツアー	交流拠点 形成事業									
		(発券数)	(視察)	(発券数)	(視察)																			
R5	176,295	68,118	61,475	30,179	999	28,697	1,600	1,461	1,175	286	5,182	1,699	119	439	2,925	0	0	1,603	902	0	0	701	106,574	
R4	267,334	95,740	85,451	42,870	2,319	37,165	3,097	2,982	2,382	600	7,307	1,403	209	387	4,467	400	441	2,044	1,575	0	0	469	169,550	
R3	228,571	78,785	73,395	34,963	1,709	34,303	2,420	2,125	1,423	702	3,265	644	240	377	1,370	470	164	2,988	2,988	0	0	0	146,798	
R2	148,754	36,083	33,842	20,669	1,345	10,933	895	359	67	292	1,882	185	403	102	627	278	287	1,953	1,953	0	0	0	110,718	
31・R1	245,078	124,689	110,406	51,450	2,805	52,583	3,568	5,046	3,200	1,846	9,237	1,602	748	729	5,072	271	815	9,486	4,701	0	0	4,785	110,903	
30年度	221,157	111,365	94,208	45,437	2,537	43,629	2,605	5,955	3,483	2,472	11,202	1,241	818	725	7,253	400	765	8,122	3,862	0	0	4,260	101,670	
29年度	236,110	131,264	111,640	55,118	2,396	50,704	3,422	4,745	3,191	1,554	14,879	1,190	310	728	11,604	240	807	6,646	4,207	0	0	2,439	98,200	
28年度	202,665	97,898	79,620	41,133	1,959	33,918	2,610	4,836	2,924	1,912	13,442	2,105	335	545	9,431	267	759	10,071	4,327	0	0	5,744	94,696	
27年度	252,303	155,517	140,658	57,879	1,705	77,538	3,536	6,032	4,140	1,892	8,827	1,309	306	343	5,673	396	800	5,303	4,434	0	0	869	91,483	
26年度	200,624	109,888	95,994	47,119	1,130	45,502	2,243	5,961	3,609	2,352	7,933	1,139	278	359	5,312	364	481	5,548	4,740	0	0	808	85,188	
25年度	213,116	121,898	106,041	57,860	1,864	43,886	2,431	6,605	4,067	2,538	9,252	1,635	422	453	5,443	468	831	7,220	6,350	0	0	870	83,998	
24年度	200,181	107,246	91,464	49,341	2,359	37,354	2,410	6,351	2,983	3,368	9,431	3,003	306	427	4,633	183	879	7,110	6,077	0	0	1,033	85,825	
23年度	200,843	112,026	96,890	49,858	3,030	40,232	3,770	5,758	3,354	2,404	9,378	2,473	276	402	4,943	166	1,118	4,658	3,721	183	0	754	84,159	
22年度	231,370	145,519	124,081	56,505	3,281	55,858	8,437	6,137	4,060	2,077	15,301	2,937	84	444	11,121	188	527	3,728	2,670	141	0	917	82,123	
21年度	233,815	145,172	125,928	59,508	1,876	59,780	4,764	6,394	4,399	1,995	12,850	3,553	330	488	7,029	231	1,219	5,194	3,871	274	0	1,049	83,449	
20年度	169,893	97,551	77,681	49,634	1,896	23,785	2,366	8,199	4,754	3,445	11,671	1,649	265	549	8,613	143	452	2,781	1,076	180	0	1,525	69,561	
19年度	203,261	126,055	109,082	66,291	1,602	39,305	1,884	10,422	7,306	3,116	6,551	1,515	219	496	3,861	240	220	4,833	1,317	166	0	3,350	72,373	
18年度	221,232	149,254	127,856	92,277	2,159	31,905	1,515	12,369	7,957	4,412	9,029	2,604	263	479	5,213	345	125	1,576	156	195	125	1,100	70,402	
17年度	142,814	113,579	99,768	66,274	1,172	32,304	18	8,866	5,252	3,614	4,945	1,321	92	209	2,911	180	232	665	151	282	232	0	28,570	
計	3,995,416	2,127,647	1,845,480	974,365	38,143	779,381	53,591	110,603	69,726	40,877	171,564	33,207	6,023	8,681	107,501	5,230	10,922	91,529	59,078	1,421	357	30,673	1,776,240	

■R5年度の月別統計

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)																	館外利用者					ホームページ 利用者
		展示利用者 (a)						施設利用者 (b)			館内事業・サービス利用者 (c)								出前授業 貸出キット 外部主権講座	県民参画事業		ハブ博物館 ネットワーク事業		
		常設展示		企画展示		資料閲覧室 利用者	生涯学習室 等利用者	講座・講演会 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等	コピー・デジタル 資料サービス利用	イベント 参加者	わいわい ミュージアム	かいいあむ 検定	収蔵品ゆかり の地ツアー	交流拠点 形成事業									
		(発券数)	(視察)	(発券数)	(視察)																			
4月	16,198	4,966	4,263	2,154	120	1,803	186	173	139	34	530	336	13	39	142	0	0	200	200	0	0	0	11,032	
5月	18,597	5,243	3,900	2,553	152	1,020	175	148	132	16	1,195	247	10	55	883	0	0	390	371	0	0	19	12,964	
6月	14,656	3,679	2,774	2,631	143	0	0	178	131	47	727	486	32	52	157	0	0	0	0	0	0	0	10,977	
7月	32,468	12,633	11,896	5,371	93	6,211	221	242	185	57	495	227	10	40	218	0	0	683	1	0	0	682	19,152	
8月	50,223	26,517	24,733	10,142	267	13,765	559	317	304	13	1,467	46	16	136	1,269	0	0	0	0	0	0	0	23,706	
9月	21,617	6,857	6,226	3,159	100	2,735	232	152	118	34	479	234	12	74	159	0	0	52	52	0	0	0	14,708	
10月	22,536	8,223	7,683	4,169	124	3,163	227	251	166	85	289	123	26	43	97	0	0	278	278	0	0	0	14,035	
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	176,295	68,118	61,475	30,179	999	28,697	1,600	1,461	1,175	286	5,182	1,699	119	439	2,925	0	0	1,603	902	0	0	701	106,574	